じり貧整骨院が最後の望みの SPAT で破綻回避

『ゆがみ取り SPAT 下巻』が 2021 年 4 月に刊行され、2020 年 10 月発行の上巻と合わせて全体が完結した。 開発の経緯については、4 月のインタビュー記事(4 月 7 日号、4 月 14 日号)をご一読願いたい。このシリーズでは、実際の臨床場面でゆがみ取り SPAT を早くから取り入れている何人かの治療家に登場してもらい、私と対談してもらうこととした。第 2 弾のお相手は、『ゆがみ取り SPAT』の講習開催資格を持つ指導講師の吉澤亮氏。ゆがみ取り SPAT を臨床応用している治療家の生の声を聴くことは、これからゆがみ取り SPAT を取り入れるかどうか検討している治療家にとって、とても参考になるはずだ。(鹿島田忠史)

吉澤亮 (よしざわ・りょう)

1978 年生まれ。

1994年 私立駒場学園入学

1997年 同校卒業

1999 年 日本柔道整復専門学校入学

2002 年 同校卒業

2002 年 日本鍼灸理療専門学校入学

2005 年 同校卒業

2006年 柔道整復師の専門学校時代の友人と横浜市都筑区仲町台に『よこはま鍼灸整骨院』開業

2008年 同院の院長に就任

2021 年 株式会社 ROD (よこはま鍼灸整骨院 仲町台本院、よこはま鍼灸整骨院 北山田院、Refuge 鍼灸院) CTO (最高技術責任者) 就任

(写真)



吉澤亮氏

鹿島田 吉澤先生に初めてゆがみ取り SPAT 講習会でお目にかかったのは 2010 年の 7 月ですから、もう 11 年近くになります。それ以来、ゆがみ取り SPAT の普及活動に協力してもらって、ずっと感謝しています。今日は、吉澤先生とゆがみ取り SPAT (以下 SPAT と略す) の関わりについて、いろいろとお話を伺いますので、よろしくお願いいたします。

吉澤 こちらこそ、よろしくお願いいたします。

鍼灸・柔整師の道を選んだ理由は?

鹿島田 吉澤先生と SPAT の関わりを聞く前に、そもそものお話をお聞きします。先生が鍼灸・柔整師の道を選んだのはどんな理由だったのですか。何かきっかけがあったのですか。

吉澤 私がこの業界を目指したのは高校2年生の時です。当時、私は野球部で外野手をしていました。一応、野球のスポーツ推薦で入学しました(笑)。ところが、高校に入ってからは肩や腰を痛め近所の接骨院に通っていました。右肩の痛みを騙しながら続けていましたが、どうしても以前のような球は投げられず、野球は高校までで終わりでした。次は漠然とトレーナーとかをイメージして、治す側になりたいなぁと思いました。

鹿島田 学生の時には地元の接骨院の助手をされていたと以前聞きましたが、その接骨院では腰痛や肩こりなどの慢性疾患にはどんな施術をメインにしていたのですか。

吉澤 その地元の接骨院は自分自身も通っていました。そこではその院独特の手技をメインで施術していました。

SPATの最初の印象は「効果の実感は薄かった」

鹿島田 吉澤先生と初めて顔を合わせたのは、私が日本柔道整復専門学校で一般臨床医学を教えていると きだと思うのですが、そうですよね。

吉澤 そうです。

鹿島田 確か最終講義の時に、少しだけ SPAT の話をしたと覚えているのですが。それが吉澤先生が SPAT を知ったきっかけだったのですか。

吉澤 はい。そうですね。ただ当時の私はあまり真面目な生徒ではなかったので、鹿島田先生の授業中はほとんど少年マガジンを読んでいました… (笑)。

鹿島田 私の授業では聞きたい人の迷惑になるので私語厳禁でしたが、それ以外は自由でしたからね。それを素直に? 受け止めて吉澤先生は授業中マンガを読んでいました。私がマンガをのぞき込んだ場面を確かに覚えています。 さて、その後私の開催する講習会に参加されましたが、その時の SPAT に対する正直な印象はどうでした?

吉澤 ぶっちゃけ、骨格矯正だけでもすでに3種類は学んできたので、即効性や効果の実感は薄かったです。ただ考え方や理論がしっかりしていたので、学んでいきたいと思いました。

鹿島田 当時、私は「ゆがみ取り SPAT は簡単で、すぐにできるようになります」といっていた記憶があるのですが、実際に簡単だと思いましたか。

吉澤 色々な手技を勉強していたので、手順は簡単(単純)だと思いました。とはいっても、今までにない動きとかもあったので、難しいと思う部分もありましたが…。

実際、SPATを臨床に取り入れてみると…

鹿島田 何回かの講習を受けて、ある程度 SPAT ができるようになったはずですが、SPAT を臨床に取り入れるのはスタッフとして難しかったですか。院長の方針もありますし…。

吉澤 講習を受けた時には、スタッフではなく既に院長でしたので特に問題はなかったです。

鹿島田 よこはま鍼灸整骨院の院長になってから SPAT を本格的に取り入れたようですが、それまでの施術との兼ね合いはどうしたのですか。SPAT を取り入れようとするとき、どんな問題点がありましたか。

吉澤 今までやっていた骨盤矯正や整体(アクティベーターメソッドカイロプラクティックテクニック)との住み分けが難しかったですね。すでに自費施術でコースとして成り立っていたので…。既存のコースを撤廃することは難しかったので、他のスタッフへの共有は後回しにして、自分の診る患者さまに組み込んでいきました。

他の施術と併用してもいいのが SPAT の特徴でもある

鹿島田 ということは、今までの施術と併用で取り入れていったのですよね。その場合、今までの方法との兼ね合いはもうちょっと具体的にどうしたのでしょう?

吉澤 併用したり、受け比べてもらったこともあります。段々と自分の中で患者さんの状態や好みに合わせてチョイスするようになりました。もちろん今でも併用することもあります。併用してもオッケーというところも SPAT の特徴でもあると思います。開発者である鹿島田先生がオフィシャルでオッケーと言ってくれるのは珍しいと思います。先生は、なぜそう言われるのですか?

鹿島田 併用がオッケーと言っている理由は、どの手技を使うかよりも操体理論が大切だからです。吉澤 先生もご存知のように、操体理論で最も重要な法則は「後が気持ちいいは、体にいい」です。この理論に そのまま従えば、施術をする上で重要なのは「後が気持ちいい」かどうかだけです。ですから、この法則 から外れなければ何をしてもいいわけで、当然 SPAT とそれ以外の併用を禁止する理由はありません。そもそも世の中には、それだけでどんな病気も治る治療などありません。自分がしている施術に誇りを持つ のはいいですが、それだけをしていればいいと思ったら間違いでしょう。

次に伺いますが、吉澤先生が初めて SPAT を臨床で試したとき、先生の感想はどんな風だったのですか。 また、患者さんの反応はどうでしたか。

産後の患者さんにも SPAT は安心・安全に自信をもってできる

吉澤 私自身は今までやっていた手技よりもやっている感が少なかったし、やられている感も少なかった

ので、正直少し不安でした…。患者さんの反応は効果を感じていただけ、良かったです。「動かしにくい方ではなく動かしやすい方を動かすんですね!」と不思議がる方もいらっしゃいました(笑)。

鹿島田 SPAT をしていて、してよかったと手応えを感じるのはどんなときですか。実例があったら教えてください。

吉澤 産後の骨盤矯正で、産後1カ月以内とあまり時間がたっていない患者さんを安心・安全に自信をもってできることです。

交通事故後のむち打ち症状の方にも重宝している

鹿島田 ゆがみ取り SPAT を臨床でしているとき、他の施術と比べてよかったと思える点は何でしょう。 また、そう思えた症例がありましたら教えてください。

吉澤 SPAT の特徴が軟部組織を緩ませて矯正もできる! というオールインワンな手技なので、交通事故後のむち打ち症状の方には特に重宝します。もちろん効果も出るので、患者さんにも喜んでいただけています。

鹿島田先生の柔らかく包み込まれるような手には感動を覚える

鹿島田 実際、SPAT をするときに、難しく感じる点にはどんなものがありますか。それは、経験を積めば解消できるものなのでしょうか。

吉澤 どんな手技にも共通して言えることですが、SPAT は特に手の力を抜いて柔らかく触るというのが難しいと思います。逆に言えば SPAT が上達すると他の手技も間違いなく上達します! それと、相手とシンクロするのも難しいですね。個人差はありますが、どちらも経験を積めば、ある程度は解消できると思います。

今でも鹿島田先生の柔らかく包み込まれるような手には感動を覚えるのと同時に、常に目指している感覚です。そこで先生に教えてほしいのですが、どうすれば先生のような柔らかく包み込まれるような手を 作れるのですか。

鹿島田 そうですね、私自身としては柔らかい手を作ろうとしていたのではなく、患者さんの気持ちよさを追求して手技を工夫したら自然とそうなったのです。ただ、強いてコツを挙げれば、体に触れるときに 手先ではなく全身で受け止める、といったイメージを持つことですね。

続いて聞きたいのですが、吉澤先生が最初に SPAT に接したときと現在で、SPAT の内容は違ってきていますか。違っているとして、どこがどれくらい違うようになったのでしょう。

吉澤 細かく伝えるのは難しいですが、日々アップデートされていくので、最初とは全然変わったという 印象です。そして今も変わり続けていると感じます。決してネガティブではなくポジティブな意味でです けどね (笑)。より良いものをという鹿島田先生の飽くなき探究心からなんでしょうね!

SPAT は自費施術の武器になるし、手応えはばっちり!

鹿島田 飽くなき探究心といっていただいて嬉しいですね。私としては、敬三先生の「野次馬根性が大切」を守っているだけです。「どうして?」と抱いた疑問が、「ああそうなのか」と解決すると、とても気持ちいいんです。ところで、ゆがみ取り SPAT は自費施術の武器になってほしいと思っているのですが、実際の臨床での手応えはいかがでしょうか。もし、自費施術の武器にする上で注意点があるとすれば、どんな点でしょう。

吉澤 私の仲間も含めてみんな自費施術の武器にしているので、手応えはばっちりです! 注意点を挙げるのであれば、安売りをしないということですね! 私の受講生の1人にじり貧な整骨院の最後の望みとして受講された先生がいらっしゃいますが、SPAT を学び自費施術メニューに取り入れたら、経営も安定しました。今でも良き仲間として、月1で技術の研鑽にいらしていただいています。

鹿島田 それは素晴らしい。私もそうした話を聞くと胸が熱くなります。吉澤先生も人を救えて教え甲斐 があったというものですね。

SPAT では手技以外に、操体理論による生活習慣指導を重視しています。患者さんに生活習慣指導をするとき、「余計なことを言わずに施術だけしてくれればいい」という顔をされませんか。また、そうした反応にあったとき、どのように対処して乗り越えました。あるいは、今でも困難を感じますか。

操体理論も武器になるし、スタッフ教育にも役立つ

吉澤 正直、そのような患者さんはほとんどいなくて、操体理論自体も当院では武器になっています。患者さんはもちろんですが、スタッフ教育にも大変役立っています。当社は現在 10 名以上のスタッフが在籍していますが、全員操体理論を共通言語として活用させていただいています。

鹿島田 操体理論による生活習慣指導の有用性を感じることはありますか。それは、どんな場合でしょう。 例があったら教えください。

吉澤 様々ありますが、先生の著書である『がんを再発させない生活術』や『がんを再発させない暮らし方』などをがんの術後の患者さんに差し上げると大変喜んでいただけました。「こういう物が欲しかったのよ!」と言っていただけたときは、私も嬉しかったです。親族にも2人がんになった人がいるので、本を送りました。できる範囲で実践してくれているみたいです。

SPAT は美容の強力なツールになる!

鹿島田 吉澤先生は、慢性障害だけでなく美容的な目的の施術もされているようですが、そうしたサロンで SPAT の反応はいかがです。他の施術と比べてメリットがあるとすれば、どんな点があるのでしょう。

吉澤 やはり最大のメリットは医師が考案したという権威性ではないでしょうか! 正直、手技に関しては他の物でも代用できる部分もありますが、サロンにおいて生活習慣アドバイスなどで、操体理論は大活躍です。

最後に私からも先生に質問があります。当社は美容や痩身などにも着手し始めていますが、その分野でも SPAT は活かせると思いますか? 先生ならどのような展望をお考えですか?

鹿島田 誠快醫院では医療が中心であまり強調していないのですが、実は SPAT も操体理論も美容や健康的な痩身に強力なツールとなります。例えば、美容方面で小顔が意識されますが、胸椎・頸椎 SPAT をすると頭頸部のリンパ流が改善して顔のむくみがとれて小顔にできます。実際、以前取材に来た雑誌社のライターさんに頸椎 SPAT をし、ビフォア・アフターで鏡を見てもらったらビックリされたことがあります。ほかにも、最近痩身で主流の糖質制限食を気持ち良く取り入れるためには、操体理論に基づいた食事指導がとても役立ちます。美容が目的ではないのですが、誠快醫院の女性患者さんからも「10歳くらい若く見られる」とおまけが付いて喜ばれています。

吉澤 ありがとうございます。頸椎 SPAT による小顔効果は期待できますね! 生活習慣アドバイスにも 力を入れているので、先生から教わっていることは私の財産であり、どんどん還元していきたいです。

週刊あはきワールド 2021 年 6 月 2 日号 No. 716 より許可を得て転載